

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田(1階)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成27年12月26日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2297200558-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅に代わる生活の場なので、決められたスケジュールなどで縛られることなく自分らしさや誇りを尊重し、ご自分のペースで生活を送ることが出来るようお手伝いをしています。年2回の「春の家族会」「敬老家族会」唯一全家族が交流を図れる場なので継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景も残る市郊外に小規模多機能事業所を併設し、合同でのイベントが数多く催されている事業所です。本年度は開設以来念願だった県外へのバス旅行が叶い、訪れた名古屋水族館のイルカショーでは利用者と職員に満開の笑顔が咲きました。移動には車いすが必要との利用者が半数余を占めるなか、普段から立位を保持できるようDVDを活用しての機能訓練や体操をおこない、屋外への散歩をはじめ生活動作にリハビリを組み込み全員参加が実現しました。毎年2回の家族会は出席率も高く、3年を経て家族間で気さくに会話できる関係となり、同時に事業所への要望もスムーズで、運営改善への弾みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を継続し、笑顔で対応している。	本年度の事業所目標を「明るいあいさつ、明るい対応」として掲げ、管理者が目配り、気配りで推進しています。「利用者の笑顔をもっと～」と企画した名古屋港水族館のイルカショーやうなぎパイ工場見学では利用者とともに職員の笑顔も膨らみました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神田公民館で毎月1回民生委員が行っている「おたっしやクラブ」や年間の行事に参加している。	民生委員の支援も厚く「おたっしやクラブ」の参加も恒例となり、小学校で輪投げ大会をやると言えば出掛けて交流を深めています。事業所の夏祭りには前年よりも集客運動と催しの内容に力を注ぎ100名余の賑わいとなりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と一緒に散歩や買い物に出掛けたり、夏のイベントに地域の方を呼び一緒に参加、交流を図ることで理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回の運営推進会議を継続、生活状況や認知度・身体的な部分で重くなってきた旨を報告。民生委員からは情報を提供して下さるので、参考にしながら職員と共にサービス提供を考えている。	レジュメの表紙は季節のイラストで飾られ、データとともに日々の報告が丁寧におこなわれていることを書面確認しました。民生委員からは地域情報が詳細に伝えられ、他の地域とのつなぎ役も担ってくださる、なくてはならない存在となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時にサービスの取り組み方など伝えている。また、国保連関係、行政上不明な事など連絡相談をしますがあまり密には取り組めていない。	災害緊急時に浜松市が最新情報を配信するシステムに全職員の携帯が対応しており、本年の水害ではリアルタイムの状況把握が役立ち、実際2階へ避難もおこなわれました。浜松市ささえあいポイント事業の登録事業所にもなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定にうたっており、職員全員が身体拘束をしない方針である。毎年身体拘束についてリーダーが社内研修に出席、それを内部研修でおとし理解をしている。	侵入者がわかりにくい設計ですが、施錠はありません。法人の年間研修会にも位置付けられ、リーダーが代表で学び所内に落とし込んでいます。過去にはやむなく身体拘束が求められる状況となったこともありますが、定められた適切な手順を踏んでいます。	施錠がないことは開放的で良い反面、設計としては心配な面もあり、リスクについて改めて協議することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーが社内研修に出席、内部研修でおとししている。職員一人一人が言動や身体的、その他の虐待防止に努めている。体の見えない部分では入浴時、起床・就寝の着替え時に確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダーが社内研修に出席しそれを内部研修でおとしている。現在1階の方1名その制度を利用していますが、研修で学んでもなかなか理解を深めるまでにはっていない。全ての研修についてリーダーが理解をし内部研修でみんなが分かるよう説明をしているか自己評価式となっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み上げ不明な点があれば十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会懇談会にて意見や要望を伺いすぐにできることは即実行している。それ以外(電話や面会時など)でも要望があれば出来る限り応えるようにしている。	"あいの街神田だより"とともに日頃の様子を届けています。職員が手書きでしたためおり、末尾には名前を記しているため面会では家族から声をかえてもらえることもあります。同一ではなく毎回交替することも職員を知ってもらえることにつながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修や朝礼、その他提案があれば随時意見を聞き可能な限り反映出来るようにしている。	18時～20時の会議にはパートタイマーも含み全員に手当もでて、欠席者には後日資料全般が渡されています。資料を熟読後は意見を記すことが義務づけられ、情報が万遍なく行き渡る仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリアパス制度を行っている。働きがいのある職場づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や在宅協・教育が依頼した外部研修、初任者研修などの参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会に参加をしたり、市や地域包括など開催している講習・研修などに参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居して頂くために事前にご本人に会い話をしたり寄り添うなどコミュニケーションを図りながらアセスを取りサービスにつなげている。馴染の関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスを取り、困っていることや要望。意向など伺いサービスにつなげている。常に相談が受けられる体制を保ち、状態・状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に今何が必要なのかを伺う。ご本人に関しては、応えが返ってこない場合があるため会話をし、話をすることでヒントとなるものを見つけ出し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯たたみや調理・後片づけ、また、テレビを観て笑ったり歌ったりして職員と一緒に過ごしたり、外出・外食などの楽しみも生活の一貫として共に楽しみながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られる様オープンにしたり、また、いつでも家族と外出・外食が出来るよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人との外出や外食、施設での面会も自由に行い交流を崩さないようにしている。お手紙のやり取りなども行っている。	野菜ジュースや頭髪剤など暮らしに密着した習慣は家族の支援を以て続けることができ、事業所も面会時間を定めずオープンに受入れています。また隣接の小規模多機能事業所から入所の人もおり、イベントでは再会を喜び合う姿もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に姉のように心配をしたり、時に友達や近所関係になるなど特に大きなトラブルもなく過ごしている。その中でも、職員がパイプ役になり毎日が楽しく生活出来るよう努めている。。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3年目に入り少しずつレベルは落ちてきているためそれぞれの思いや希望を伺っても難しい人もいますが、テレビや雑誌、広告など見たり普段の会話から昔の話をするなどして思いを引き出すよう努めている。	10時と3時のおやつで提供するドリンクは日本茶、ココア、珈琲、紅茶から選んでもらい、主体性をもってもらうようにしています。また口頭で掴みにくい人にはペーパーに書いて示すといった工夫も加えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前担当のケアマネがいれば情報をもらい利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺っている。また、ご本人・ご家族からの聞き取りもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握する。また、病院や施設からの入居に関しては家族にも来て頂きその職員と家族からの情報をもとに把握、他ご入居者様とストレスなく一緒に生活ができていのかその実態把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人がご入居者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればスタッフや家族と相談、または、担当者会議を開くなどしてより良い生活が出来るよう職場会議などでも話し合っている。	毎月のミーティングでは重点的に数名の利用者について話し合い、プラン化に役立てています。利用者家族を交えた担当者会議を経て作成した後、原則6ヶ月毎に更新し、職員からの評価を参考に、計画作成担当がモニタリングしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量や排泄など毎日様子観察をしどんな小さな事でも気付いた点があれば随時報告、随時話し合い個別記録やスタッフ連絡ノートなどに記入をし検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況把握をすることで、何ができて何が出来なくなってきたのか問題点や課題をあげ職場会議にて職員自身が柔軟に考え対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医なのか施設に月2回往診に来ている先生にするかを家族に聞いている。また、提携している病院も近くにありそちらとの連携も図っている旨も伝えている。24時間対応して下さるので、ちょっとした変化や緊急時に往診の先生に連絡を取り指示を仰いだり、来てくれるなど対応に努めている。	月2回往診、24時間オンコールの手厚い協力医へと1名を除き全て変更しています。救急時にはまず協力医の判断を仰ぐこととし、夜中に駆けつけてくださったこともあります。協力医のほかに徒歩5分ほどの場所に提携医として総合病院があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になることがあれば看護師に相談をし家族にも伝え早期発見に努め適切な受診を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き、入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。また、医師、家族との話し合い時に家族の理解が得られれば同席するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを(医療的な処置が必要な場合を除き)説明し、ターミナルの考え方を本人、家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようカンファレンスを開いている。	看取り方針は家族にも伝え、実績も1例あります。一旦病院に運ばれたものの「管につながれた～見たくない」との家族の申し出に、事業所とともに協力医も快く応じ穏やかに見送ることができました。また経験を通じて職員の観察力も高まっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社の規定により、年2回の防災訓練を行っている。総合訓練では、民生委員の参加と協力を得ている。また、教育で行う救命救急の研修にも職員の参加を促している。	法定訓練の内1回は消防署職員の立ち合いをお願いして、実施指導を受けています。職員にはヘルメット、利用者には防災頭巾が法人から支給されており、車いすに居ながらにして水消火器をもって活躍する様子は写真掲示からも視認しました。	誰が何を担当(訓練)したのか記録をとり、全員がすべてのメニューを体験することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の先輩としてプライドを傷つけないよう敬い職員一人一人の言動に注意し対応にあたっている。	法人で開催する年1回の接遇研修に代表者が参加し、また新人研修でも接遇に関して学習しています。記録やトークではイニシャルを活用したり、利用者の前ではトーンダウンして話すことでプライバシー情報の漏えいを防いでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増減をもって対応している。何気ない会話の中からでも希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ生きてきた生活習慣や環境、また、性格や年齢も違うので、決められたスケジュールに縛られず個々のペースを大事にしている。また、入居者様の希望、訴えがあれば出来るだけ治えるよう努めている。職員のペースになることもあるので統一を図るため職場会議で話している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり、訪問理美容に来てもらいカットやヘアカラーなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやおしぼりをまいたり、食器やお盆を拭いたりしている。	調理には係われていませんが、おしぼり巻と盆拭きそれぞれ担当をもつ利用者がいます。本年から食材が届くようになり、買い出しに利用者が出かける機会が減ったことは残念ですが、その時間を他にかけることができるようになったメリットもあります。	「プチトマトが堅い」「人参が多すぎる」と食事中にも利用者の話題となっていました。が、トマトは皮を湯むきしたり、また見た目も含み食材のバランスへの取組みが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量を記録し特別な状態があれば主治医または看護師に連絡をし指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導にて行っている。ご自分で磨かれる方は必ず最後に口腔内の確認をとっている。入歯の方も確認を取り洗浄液につけるなど清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握、確認を取りながらトイレの声掛け誘導をし、失敗がないよう対応している。出来るだけ日中は綿パンにパッドまたは綿パンのみの対応に心掛けている。	介護度5で立位が難しい人も2人介助で取り組み、今の所全員がトイレでできています。パッドの取り換え頻度が上がれば原因を探り「できるだけ増やさないように」と家族の経済的負担への配慮もみられます。	トイレに尿臭が残っていました。溝などに付着したものが時間経過とともに臭っているかと推量されますので、定期的に見えない部分の清掃をおこなうよう期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をし赤ペンで量なども記録をしている。なるべく食物繊維のあるものや水分を摂って頂いていますが、便秘が続くようであれば主治医に連絡または往診時に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態を確認し入浴の声掛けをしたり、本人の希望に応じるなど対応に当たっている。入浴剤を入れるなどリラクセスして湯船につかれるようにしている。入浴前にはバイタルを行っている。	浴槽は可動式で右麻痺、左麻痺に対応できますが現在は該当者がいないため固定され、1面のみから脚をいれる形をとっています。どの壁にも手すりがつき、ヒートショック防止のハロゲンヒーターも備わっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に少し横になりたいと訴えがあればソファや畳、居室にて昼夜逆転にならない程度に横になっている。夜も本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認が出来るようにしている。状況に変化があれば往診の先生に連絡・相談をし指示を仰いでいる。薬局にも相談を掛けている。ご家族にも報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、外食等外出することで気分転換を図っている。役割として調理のお手伝いや食器拭き、洗濯物をたたんだりおしぼりを作るなどの役割が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者の希望や職員の希望を聞くなどで企画を立て出掛けている。	バスをチャーターしての名古屋水族館への日帰り旅行が本年の目玉外出です。日頃は利用者2名に職員1名をめやすとした個別散歩が定着しており、近所の皆さんとは顔見知りとなり、談笑のひとつも日常となっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはお金を渡してご自分で支払いをしてもらっている。おつりがあればもらうように声掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば自由にやり取りが出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを作り飾ったり、庭では季節の花を植えたりして癒し空間を作っている。常に温度調節するよう心掛け快適に過ごして頂くよう努めている。	ファミリーレストランやホテルでの会食、運動会、水族館でのイルカショー、防災訓練…と多彩な行事が階段・廊下にも貼りだされ、見て楽しい共用空間です。居室にはありませんでしたが、カーテンはレース付の2枚組で、間接照明も配されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人や、ソファや畳で過ごしたい人、居室で過ごしたい人などその時どこにいたいのか希望に沿った場所で過ごせるよう配慮してる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して居室で過ごせるよう、契約時に使い慣れた物を用意して頂くように伝え、普段の就寝の状態を崩さないようにしている。	居室前の表札は認識できる人には「つけない」としています。備え付けクローゼットがあるためか大きな持ち込みはなく、小さなチェストや小物がみられます。エアコンは職員がタイマーセットで管理し、いつでも快適温度です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、出来るだけ自分で目的の場所に行かれるようにしている。また、フロア内や居室などで安全に生活出来るようゆとりある空間づくりに心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街神田(2階)		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	平成27年12月26日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=229](http://x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=229)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅に代わる生活の場なので、決められたスケジュールなどで縛られることなく自分らしさや誇りを尊重し、ご自分のペースで生活を送ることが出来るようお手伝いをしています。年2回の「春の家族会」「敬老家族会」唯一全家族が交流を図れる場なので継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景も残る市郊外に小規模多機能事業所を併設し、合同でのイベントが数多く催されている事業所です。本年度は開設以来念願だった県外へのバス旅行が叶い、訪れた名古屋水族館のイルカショーでは利用者と職員に満開の笑顔が咲きました。移動には車いすが必要との利用者が半数余を占めるなか、普段から立位を保持できるようDVDを活用しての機能訓練や体操をおこない、屋外への散歩をはじめ生活動作にリハビリを組み込み全員参加が実現しました。毎年2回の家族会は出席率も高く、3年を経て家族間で気さくに会話できる関係となり、同時に事業所への要望もスムーズで、運営改善への弾みとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を継続し、笑顔で対応している。	本年度の事業所目標を「明るいあいさつ、明るい対応」として掲げ、管理者が目配り、気配りで推進しています。「利用者の笑顔をもっと～」と企画した名古屋港水族館のイルカショーやうなぎパイ工場見学では利用者とともに職員の笑顔も膨らみました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神田公民館で毎月1回民生委員が行っている「おたっしやクラブ」や年間の行事に参加している。	民生委員の支援も厚く「おたっしやクラブ」の参加も恒例となり、小学校で輪投げ大会をやると言えば出掛けて交流を深めています。事業所の夏祭りには前年よりも集客運動と催しの内容に力を注ぎ100名余の賑わいとなりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員と一緒に散歩や買い物に出掛けたり、夏のイベントに地域の方を呼び一緒に参加、交流を図ることで理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回の運営推進会議を継続、生活状況や認知度・身体的な部分で重くなっている旨を報告。民生委員からは情報を提供して下さるので、参考にしながら職員と共にサービス提供を考えている。	レジュメの表紙は季節のイラストで飾られ、データとともに日々の報告が丁寧におこなわれていることを書面確認しました。民生委員からは地域情報が詳細に伝えられ、他の地域とのつなぎ役も担ってくださる、なくてはならない存在となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時にサービスの取り組み方など伝えている。また、国保連関係、行政上不明な事など連絡相談をしますがあまり密には取り組めていない。	災害緊急時に浜松市が最新情報を配信するシステムに全職員の携帯が対応しており、本年の水害ではリアルタイムの状況把握が役立ち、実際2階へ避難もおこないません。浜松市ささえあいポイント事業の登録事業所にもなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定にうたっており、職員全員が身体拘束をしない方針である。毎年身体拘束についてリーダーが社内研修に出席、それを内部研修でおとし理解をしている。ただし、2階はエレベーター4階段があるためあくまでも危険防止のためユニットの出入り口は閉めている。外出の訴えがあればいつでも出掛けられる体制にはなっている。	エレベータ付近での事故防止のため、ユニット出入口に電子ロックがあります。法人の年間研修会に本件も位置付けられ、リーダーが代表で学び所内に落とし込んでいます。身体拘束が求められる状況になったとしても適切な手順を踏む書面等の用意があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーが社内研修に出席、内部研修でおとしている。職員一人一人が言動や身体的、その他の虐待防止に努めている。体の見えない部分では入浴時、起床・就寝の着替え時に確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダーが社内研修に出席しそれを内部研修でおとしている。現在1階の方1名その制度を利用していますが、研修で学んでもなかなか理解を深めるまでにはいっていない。全ての研修についてリーダーが理解をし内部研修でみんなが分かるよう説明をしているか自己評価式となっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み上げ不明な点があれば十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会懇談会にて意見や要望を伺いすぐにはできることは即実行している。それ以外(電話や面会時など)でも要望があれば出来る限り応えるようにしている。	"あいの街神田だより"とともに日頃の様子を届けています。職員が手書きでしたためおり、末尾には名前を記しているため面会では家族から声をかえてもらえることもあります。同一ではなく毎回交替することも職員を知ってもらえることにつながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修や朝礼、その他提案があれば随時意見を聞き可能な限り反映出来るようにしている。	18時～20時の会議にはパートタイマーも含み全員に手当もでて、欠席者には後日資料全般が渡されています。資料を熟読後は意見を記すことが義務づけられ、情報が万遍なく行き渡る仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリアパス制度を行っている。働きがいのある職場づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一度の内部研修や在宅協・教育が依頼した外部研修、初任者研修などの参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅協会員などの親睦会に参加をしたり、市や地域包括など開催している講習・研修などに参加をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居して頂くために事前にご本人に会い話をしたり寄り添うなどコミュニケーションを図りながらアセスを取りサービスにつなげている。馴染の関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスを取り、困っていることや要望。意向など伺いサービスにつなげている。常に相談が受けられる体制を保ち、状態・状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に今何が必要なのかを伺う。ご本人に関しては、応えが返ってこない場合があるため会話をし、話をすることでヒントとなるものを見つけ出し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯たたみや調理・後片づけ、また、テレビを観て笑ったり歌ったりして職員と一緒に過ごしたり、外出・外食などの楽しみも生活の一貫として共に楽しみながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られる様オープンにしたり、また、いつでも家族と外出・外食が出来るよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人との外出や外食、施設での面会も自由に行い交流を崩さないようにしている。お手紙のやり取りなども行っている。	野菜ジュースや頭髮剤など暮らしに密着した習慣は家族の支援を以て続けることができ、事業所も面会時間を定めずオープンに受入れています。また隣接の小規模多機能事業所から入所の人もおり、イベントでは再会を喜び合う姿もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に姉のように心配をしたり、時に友達や近所関係になるなど特に大きなトラブルもなく過ごしている。その中でも、職員がパイプ役になり毎日が楽しく生活出来るよう努めている。。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3年目に入り少しずつレベルは落ちてきているためそれぞれの思いや希望を伺っても難しい人もいますが、テレビや雑誌、広告など見たり普段の会話から昔の話をするなどして思いを引き出すよう努めている。	10時と3時のおやつで提供するドリンクは日本茶、ココア、珈琲、紅茶から選んでもらい、主体性をもってもらうようにしています。また口頭で掴みにくい人にはペーパーに書いて示すといった工夫も加えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前担当のケアマネがいれば情報をもらい利用している施設に見学に行き利用中の様子を伺っている。また、ご本人・ご家族からの聞き取りもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントは自宅訪問を基本とし、自宅での表情や行動を把握する。また、病院や施設からの入居に関しては家族にも来て頂きその職員と家族からの情報をもとに把握、他ご入居者様とストレスなく一緒に生活ができているかその実態把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人がご入居者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればスタッフや家族と相談、または、担当者会議を開くなどしてより良い生活が出来るよう職場会議などでも話し合っている。先ずは、ユニットリーダーを中心に職員同士で課題について話し、職場会議でケアマネにあげケアの統一を図っている。	毎月のミーティングでは重点的に数名の利用者について話し合い、プラン化に役立てています。利用者家族を交えた担当者会議を経て作成した後、原則6ヶ月毎に更新し、職員からの評価を参考に、計画作成担当がモニタリングしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量や排泄など毎日様子観察をしどんなささいな事でも気付いた点があれば随時報告、随時話し合い個別記録やスタッフ連絡ノートなどに記入をし検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況把握をすることで、何ができて何が出来なくなってきたのか問題点や課題をあげ職場会議にて職員自身が柔軟に考え対応している。現場の声を聞く。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば対応に当たって行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医なのか施設に月2回往診に来ている先生にするかを家族に聞いている。また、提携している病院も近くにありそちらとの連携も図っている旨も伝えている。24時間対応して下さるので、ちょっとした変化や緊急時に往診の先生に連絡を取り指示を仰いだり、来てくれるなど対応に努めている。	月2回往診、24時間オンコールの手厚い協力医へと1名を除き全て変更しています。救急時にはまず協力医の判断を仰ぐこととし、夜中に駆けつけてくださったこともあります。協力医のほかに徒歩5分ほどの場所に提携医として総合病院があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも気になることがあれば看護師に相談をし家族にも伝え早期発見に努め適切な受診を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ出向き、入院中の様子の確認及び医療関係者からの情報を受けている。また、医師、家族との話し合い時に家族の理解が得られれば同席するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを(医療的な処置が必要な場合を除き)説明し、ターミナルの考え方を本人、家族に確認をしている。家族の意向が変わった時にも柔軟に対応できるようカンファレンスを開いている。	看取り方針は家族にも伝え、実績も1例あります。一旦病院に運ばれたものの「管につながれた～見たくない」との家族の申し出に、事業所とともに協力医も快く応じ穏やかに見送ることができました。また経験を通じて職員の観察力も高まっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社の規定により、年2回の防災訓練を行っている。総合訓練では、民生委員の参加と協力を得ている。また、教育で行う救命救急の研修にも職員の参加を促している。	法定訓練の内1回は消防署職員の立ち合いをお願いして、実施指導を受けています。職員にはヘルメット、利用者には防災頭巾が法人から支給されており、車いすに居ながらにして水消火器をもって活躍する様子は写真掲示からも視認しました。	誰が何を担当(訓練)したのか記録をとり、全員がすべてのメニューを体験することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の先輩としてプライドを傷つけないよう敬い職員一人一人の言動に注意し対応にあたっている。	法人で開催する年1回の接遇研修に代表者が参加し、また新人研修でも接遇に関して学習しています。記録やトークではイニシャルを活用したり、利用者の前ではトーンダウンして話すことでプライバシー情報の漏えいを防いでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ、選択肢の増減をもって対応している。何気ない会話の中からでも希望や思いを表出できるよう雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ生きてきた生活習慣や環境、また、性格や年齢も違うので、決められたスケジュールに縛られず個々のペースを大事にしている。また、入居者様の希望、訴えがあれば出来るだけ沿えるよう努めている。職員によっては業務的になりがちな人もいるため注意を払っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり、訪問理美容に来てもらいカットやヘアカラーなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器やお盆を並べたり、調理や盛り付け、後片づけなど毎日の習慣となっています。特に後片づけに関しては何も言わなくても率先して行い、職員よりも丁寧に行っている。	長事ではメニューの評価や時事ニュースのコメントにも忙しく口を動かす利用者もいて、「誤嚥に留意して食事に集中する」というよりはごく普通の家庭の食卓の風景です。下膳は「してもらえ」としてお茶を飲んで食後の時間を過ごしていました。	「プチトマトが堅い」「人参が多すぎる」と食事中にも利用者の話題となっていました。また見た目も含み食材のバランスへの取組みが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量を記録し特別な状態があれば主治医または看護師に連絡をし指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導にて行っている。ご自分で磨かれる方は必ず最後に口腔内の確認をとっている。入歯の方も確認を取り洗浄液につけるなど清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行かれるが、失敗もあるため排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握、確認を取りながらトイレの声掛け誘導をし、失敗がないよう対応にあたっている。	介護度5で立位が難しい人も2人介助で取り組み、今の所全員がトイレでできています。パッドの取り換え頻度が上がれば原因を探り「できるだけ増やさないように」と家族の経済的負担への配慮もみられます。	トイレに尿臭が残っていました。溝などに付着したものが時間経過とともに臭っているかと推量されますので、定期的に見えない部分の清掃をおこなうよう期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をし赤ペンで量なども記録をしている。なるべく食物繊維のあるものや水分を摂って頂いていますが、便秘が続くようであれば主治医に連絡または往診時に報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態を確認し入浴の声掛けをしたり、本人の希望に応じるなど対応に当たっている。入浴剤を入れるなどリラクセスして湯船につかれるようにしている。入浴前にはバイタルを行っている。	浴槽は可動式で右麻痺、左麻痺に対応できますが現在は該当者がいないため固定され、1面のみから脚をいれる形をとっています。どの壁にも手すりがつき、ヒートショック防止のハロゲンヒーターも備わっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に少し横になりたいと訴えがあればソファや畳、居室にて昼夜逆転にならない程度に横になっている。夜も本人の訴えがあれば居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認が出来るようにしている。状況に変化があれば往診の先生に連絡・相談をし指示を仰いでいる。薬局にも相談を掛けている。ご家族にも報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、外食等外出することで気分転換を図っている。役割として調理のお手伝いや食器拭き、洗濯物をたたんだりおしぼりを丸めるなどの役割が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者の希望や職員の希望を聞くなどで企画を立て出掛けている。	バスをチャーターしての名古屋水族館への日帰り旅行が本年の目玉外出です。日頃は利用者2名に職員1名をめやすとした個別散歩が定着しており、近所の皆さんとは顔見知りとなり、談笑のひとつも日常となっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはお金を渡してご自分で支払いをしてもらっている。おつりがあればもらうように声掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば自由にやり取りが出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったものを作り飾ったり、庭では季節の花を植えたりして癒し空間を作っている。常に温度調節するよう心掛け快適に過ごして頂くよう努めている。	ファミリーレストランやホテルでの会食、運動会、水族館でのイルカショー、防災訓練…と多彩な行事が階段・廊下にも貼りだされ、見て楽しい共用空間です。居室にはありませんでしたが、カーテンはレース付の2枚組で、間接照明も配されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人や、ソファや畳で過ごしたい人、居室で過ごしたい人などその時どこにいたいのか希望に沿った場所で過ごせるよう配慮してる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して居室で過ごせるよう、契約時に使い慣れた物を用意して頂くように伝え、普段の就寝の状態を崩さないようにしている。	居室前の表札は認識できる人には「つけない」としています。備え付けクローゼットがあるためか大きな持ち込みはなく、小さなチェストや小物がみられます。エアコンは職員がタイマーセットで管理し、いつでも快適温度です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、出来るだけ自分で目的の場所に行かれるようにしている。また、フロア内や居室などで安全に生活出来るようゆとりある空間づくりに心掛けている。		